



「自分でできることをふやそう」 中学部の取組

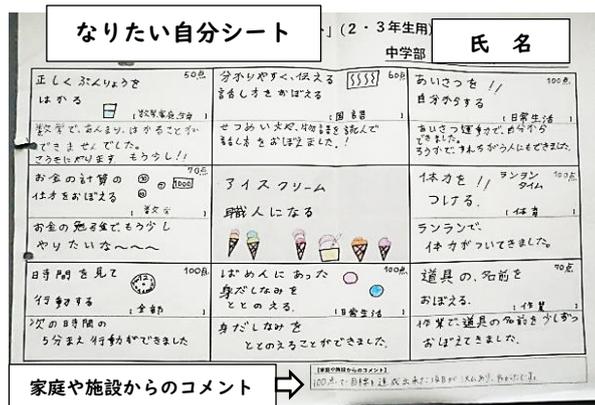
中学部主事 高橋知希子



中学部では「なりたい自分シート」を作成し、生徒本人、教師、保護者が目標を共通理解するツールとして活用しています。今、学習していることが将来の職業や生活にどう関係しているのか、何をなぜ学ぶのかが明確になります。

年度初めに前期分を作成し、9月に生徒と一緒に評価したものを保護者に提示し、3者で評価ができます。後期も同じ流れで行きます。「なりたい自分シート」を見ると、働く人になるために必要な学習は作業学習だけではなく、学校の全ての教育活動の中で行われていることが分かります。

中学部は、小学部と高等部の間に挟まれた学部です。小学部で培ってきた基本的な生活習慣、あいさつ、返事、身支度などを定着させる時期、さらに作業学習等をとおして働く力(体力、意欲、集中力等)を養い、高等部生活や高等部卒業後の生活に通ずる力を身に付ける時期と捉えています。また、生活年齢を大切に、「これができるようになる」とこんなふうになるという視点で必要なことを指導・支援し、「一人でできるようになった」という自信と実感をもって欲しいと願っています。学校で学んだことを家庭の中でもできるようにしたり、地域の中で体験学習を重ねて検証したりして定着を図っていきます。そのため、家庭、地域との連携・協力は欠かせません。これまでも「一人で軍手をはめられた」「立って靴をはけた」「自分で薬が飲めた」「自分から挨拶ができた」などうれしい場面に出会っています。これからも生徒や保護者と喜びを共有し合っていきます。



自分の荷物は自分で持つ、身だしなみを整える、自分で食べる、立って靴をはくなど、自分のことは自分でできるように徐々に支援を減らします。

先輩たちは今～Part 2～



令和3年3月卒業の伊藤英輝さんと大山克也さんです。「NPO法人そら」で働いています。在学中から実習を繰り返し、4月から通っています。主な作業はポリパック結束です。他の利用者さんとも仲が良く、行事にも積極的に参加し、充実した生活を送っています。

令和4年度 第1回移行支援ネットワーク会議

7月7日(木)に、高等部体育館を会場に、第1回移行支援ネットワーク会議が行われました。横手公共職業安定所、ネット横手障害者就業・生活支援センター、横手市社会福祉課、相談支援機関の方々に参加いただき、高等部3年生が自己紹介をしたり、卒業後の生活や進路に関して質問をしたりしました。働くために必要なこと、コミュニケーション力を高めるために必要なことなど生徒からの質問に、在学中から取り組めることなど具体例を挙げて丁寧に答えてくださいました。後半は、保護者の方に向けて、就労に必要な手続きの流れや障害福祉サービス利用の手続き、年金についての説明がありました。また、保護者の方からは、成人後の障害者手帳の更新の手続きや障害者年金について、事業所や施設の将来的な新設の見通しなどについて質問があり、回答をいただきました。

6月に前期実習を終えたところで、移行支援ネットワーク会議を行ったことで、自分の進路や卒業後の生活についてより意識が高まったように感じました。卒業まで残り8か月、それぞれの希望の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。



生徒と関係機関の方々が対面して、自己紹介や質問などを行いました。



第21回 秋田県障害者技能競技大会

7月15日(金)、秋田市文化会館で「第21回 秋田県障害者技能競技大会」が開催されました。本校からは「ビルクリーニング部門」に高等部3年の柴田裕理さん、「喫茶サービス部門」に高等部2年の奥山心美さん、同じく3年の佐々木凌さんが参加しました。当日まで主に放課後に練習を重ね、本番では緊張しながらも練習したことを十分発揮することができました。結果発表は後日となりますので、発表次第、皆さんにお伝えいたします。応援どうもありがとうございました。

